
一つだけのチューリップ

キューティー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一つだけのチュウリップ

【Nコード】

N7437P

【作者名】

キューティー

【あらすじ】

初めて小説を書きます。至らない点も多々あると思いますがよかつたら読んでください。デビュー作として雇用問題と学生の思いをネタにやってみました。

「つだけのチューリップ（1）」

今日は家族にとって特別な日であった。

なぜならオランダに留学していた祐樹一（22歳）が今日、4年ぶりに我が家へ帰ってくるのだ。

家族は首を長くして待っていた。

祐樹はきつと立派になって帰ってくる。

あの怠け者の男がどんな成長を遂げているのか。

母は花束を渡すことにしたのだが、何を思ったのかそれは赤色のチューリップの固まりだった。

本当に喜んでくれるのだろうか、オランダにはチューリップが溢れるように咲いているというのに。

そんなのも気づかないほど母は冷静さを失っていた。

午後6時49分、家族が待ちわびる家の玄関に足音がした。

「祐樹！」

家族が玄関の前にたかる。

「ただいま」

それはまぎれもなく祐樹だった。

「おかえり」

家族が温かく出迎えた。それは祐樹にとってかけがえのない瞬間だった。早速、赤色のチューリップが渡された。

母の精一杯の気持ちだとわかっていただけのだが思わず苦笑いを浮かべてしまった。

実は祐樹もこんなことを考えていた。

帰国する4ヶ月ほど前、オランダのお土産にと黄色いチューリップを卒業試験の前に合間をぬって栽培していた。

そのとき赤色のチューリップのほうが安かったのだが祐樹自身、赤色がきれいなので、赤をさけたのだ。

しかし、ここで受け取らないわけにはいかない。

内心は渋々と受け取った。

顔はつくり笑顔で受け取った。

よりによってこれかと思いたくないが思ってしまう。

つかの間の格闘が始まった。

こころの整理がついたころ、赤色のチューリップは祐樹の部屋に飾

られた。

まだ部屋を残していた家族は温かい。

「今は嫌いな赤」も後に「勝負の赤」に変わっていく。

そう、この不景気の中就職を探すこと、これはある意味卒業試験よりも何倍も難しい。

祐樹にとって本当の戦いが始まった。

早速、祐樹はハローワークにいつてみた。

そこで衝撃の事実を目の当たりにする。

無いのだ、無いのだ、仕事が。

もはや選ぶ権利がないのごとく。

あっても、ついてくるのはお金ではない、生きがいでもない、希望でもない、期限だ。

祐樹は愕然とした。

それもそのはず、知るわけがない4年前より雇用の条件が悪化していることを。

オランダに行けば、海外に行けばきつと就職できる。

そう思っていたのに期待は裏切られた。

祐樹はこれから大変な就職活動、いわゆる「就活」を迫られるのであつた。

「っだけのチューリップ」(2) (前書き)

私がドSになって祐樹をメチャクチャニしてみました。
完結です。この後はご想像にお任せします。

一つだけのチューリップ(2)

就活の初めにまずは履歴書作成。

候補10社に対してそれぞれの会社の機嫌をとるようなことを考え書き始めた。

例えば、テレビ放送局に対しては「多くの人に感動を伝えたい！」などと書いておく。

もちろん、祐樹の目的はアイドルや憧れのビックスターを見てみたいからである。

でも一番の重視は給料だった。

祐樹は昔からお金に目が無いのである。

公務員も考えたが、試験に受かる自信がなかったのだ。

留学先ではあまり成績はよくなかったらしく自信をなくしていた。

でも金だけを考え、辛いことをさげようとする人間に職など無い。

あきらめた祐樹は普通の大学生と同じように、各社の説明会に行き、入社試験に応募しては落ちるのを繰

り返した。

そんな中書類審査を唯一突破した会社があった。

そして面接会場に行くと「いける!!!」と思った。

なぜならば他の人達がうだつのあがない人ばかりであった。

祐樹は一世一代の勝負だと悟った。

そこで目をつぶり、あの自分が育てたチューリップにお祈りした。

成績最下位でも乗り越えた卒業試験のときのように。

あのお守りのような存在のあれに。

(面接中はグダグダのため省略)

面接を終え、結果は見事採用。

この企業は単に留学生が欲しかっただけがであったのだ。

それを知った祐樹はいよいよ入社した。

「この会社ならさぼってても大丈夫だ、英語が話せればそれだけで」

しかし、その会社は倒産寸前に追い込まれていた。

海外進出など夢のまた夢だった。

しだいに祐樹も残業が多くなり疲労がどんどんたまっていった。

家に帰ると飯を食っては風呂に入りすぐに寝た。

疲れがピークに達し祐樹はある日課を忘れた。

お守りの水やりである。

チューリップに寿命が来た。

お守りは枯れた。

すると前々の運がうそのように不幸が降りかかる。

会社の製品に不良品が見つかったためイメージが急落下。

会社にイメージアップを打つ金などなかったので、

「倒産」

これは「解雇」を意味する。

幸せだったはずの祐樹は一般の大学生と同じ振り出しに戻った。

お守りは一瞬にして悪魔と化した。

「次の就職ぐらいすぐあるだろう。俺は留学生だったんだぞ。」

その期待は裏切られ続けられた。

落ち込んで帰っているとき横から自動車が激突、

これも悪魔のせいだった。

祐樹の寿命は24年で尽きた。

どれもこれもお守りに頼ってばかりで、そのお守りを枯らさせた罰である。

皮肉にも葬式の花は、祐樹の親が祐樹はチューリップが好きだろう
と
思
っ
て
お
り
チ
ュ
ー
リ
ッ
プ
が
供
え
ら
れ
た。
た。

来世に期待しよう。

「つだけのチューリップ」(2) (後書き)

植物を大切に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7437p/>

一つだけのチューリップ

2011年10月8日14時07分発行